

シグマ特別専門委員会・シグマ研究委員会年表

○は月が不明な項目。日が分かるものは()内に日を示した。「シグマ委員会関係」には、シグマ委員会と核データセンター関係の事項と主催した会合を、「関連事項」にはそれ以外を記した。日本原子力研究所の年表「原研40年史」(1996)も参考にした。日本原子力学会は「学会」と記した。関連国際会議は、主要なものだけとした。

年	月	シグマ委員会関係	月	関連事項
1963 昭38	1	昭和38年度原子力平和利用研究委託費(核定数に関する試験研究のため)を受けるため、学会に「シグマ委員会」の設立準備(19,26日 対策小委員会)	1	武蔵工大研究炉臨界(30日)
	1	学会理事会「シグマ(臨時)専門委員会」設置を承認(28日)	5	IAEAのINDSWG第1回会合(27~31日、Vienna)に出席
	2	原研「シグマ研究委員会」設置(28日)事務局は核物理第1研究室	8	日本原子力船開発事業団発足(17日)
	2	学会「シグマ専門委員会」第1回会合(14日)高速グループ、共鳴グループ、熱中性子グループにより、活動開始	8	原研JPDR臨界(22日12:41)
	4	学会「シグマ(臨時)専門委員会」設置	10	原研JPDR、初の原子力発電試験成功(26日)
	○	国内研究機関の設備リスト作成	○	原研IBM7044導入(主記憶32kW)
	○	ELIESE, STEVE等の理論計算コード作成、熱中性子散乱断面積計算コード作成、共鳴パラメータの収集を開始	○	英国、AWRE AldermastonとAEE Winfrithで評価済核データライブラリーを編集(1960年から)
1964 昭39	2	「核定数」は「核データ」と言い替えることにする	4	日本、OECDに加盟
	4	CINDAグループ発足	5	ENEA/CCDN(中性子データ編集センター)発足
	○	データシートによるデータ収集を開始、1969年3月まで継続する	5	IAEAによる初めての国内原子力施設査察
	12	炉定数グループ発足(22日第1回会合)	6	京大炉臨界(25日)
	12	学会企画委に核データセンター設立について説明	○	IAEA、Nuclear Data Unitができる(現Nuclear Data Section(NDS))
1965 昭40	4	データシートによる文献収集を本格的に始める	1	原研JRR-4臨界(4日3:15)
	6	学会企画委「シグマ特別専門委員会」設置を承認(15日)	2	日本、OECD/ENEAに準加盟(23日)
	8	「高速中性子断面積研究会」(24~26日、原研東海)	5	原電東海炉臨界
	10	学会「シグマ特別専門委員会」設置	5	EANDC第8回会合(Los Alamos)に出席
	○	熱中性子散乱断面積の評価開始(~1968年まで)	6	日本、EANDCのメンバーとなる
	○	国内研究機関の設備リスト改訂	9	第4回INDSWG会議(10~17日、東京)
			12	「Nuclear Data, Section A」創刊
			○	ENDFフォーマットが考案される
1966 昭41	3	「JNDCニュース」創刊	1	日本ENEA/CCDNとENEA/CPLに加盟
	3	EANDCへのプロGRESSレポート作成、以後毎年作成	2	「Nuclear Data, Section B」創刊
	6	原研JPDR関係者からの要請により、軽水炉燃焼計算用炉定数作成(~8月まで)	3	Conf. Neutron Cross-Section Technology(22~24日、Washington)
	8	「第2回高速中性子断面積研究会」(18~	6	米国、CSEWGの第1回会合
			10	1 st IAEA Conf. Nuclear Data for Reactors

年	月	シグマ委員会関係	月	関連事項
		20日、原研東海) 9 日本の測定要求リストまとめる 11 Cの全断面積評価開始(国内初の核データ評価) ○ PROF GROUCH等の炉定数作成コード作成		(17~21日、Paris) ○ 西独、KEDAK-1公開(KfK-120)
1967 昭42		○ 「核データセンター構想」について検討 7 NAIG、MAPI、日立から原研理事長に核データセンター設立要望書提出(20日) 7 学会より原子力局長宛に「核データの収集・整備の機関設立に関する要望書」出る(25日) ○ 14 MeV中性子による反応断面積評価を行う ○ UKNDLとENDF/Bを入手		1 理研サイクロトロン完成(25日) 1 フランスの高速増殖炉RAPSODIE臨界(28日) 4 原研大洗研設置 4 原研FCA臨界(29日) 7 原研、炉物理研究委員会設置(16日) 10 動燃事業団発足(2日) 10 IAEA事務総長INDCの設置を認める ○ 英国、UKNDL-67公開 ○ 「Table of Isotopes, 第6版」発行 ○ 米国、国立断面積センターNNCSCが作られる
1968 昭43		2 「中性子断面積研究会」(15~17日、原研東海) 3 熱中性子散乱に関する文献目録出版 3 熱中性子炉用炉定数JNDCセットNo.1作成 6 原研物理部に「核データ研究室」設置(1日) ○ 熱中性子散乱断面積の評価終了		1 西独、原子力船オットー・ハーン号就航 2 4センター設立に関する打合せ(Saclay) 3 2 nd Conf. Nuclear Cross-Sections and Technology(4~7日、Washington) 3 原研JMTR臨界(30日) 5 INDC第1回会合に出席 7 米国、ENDF/B-I公開 ○ CCDN、核データ測定の要求リスト(RENDA)作成開始 ○ 西独、KEDAK-1の一部(14核種)公開(KfK-750) ○ 英国、UKNDL-68(79核種+78FP核種)
1969 昭44		2 「第2回中性子断面積研究会」(13,14日、原研) 5 「核データ情報・評価専門部会」、「炉定数専門部会」発足 10 高速炉用炉定数JAERI Fast Set完成		5 米国高速実験炉SEFOR臨界(3日) 6 原子力船「むつ」進水(12日) ○ 原研FACOM 230-60を導入(主記憶64kW) ○ EXFORフォーマットが作られる
1970 昭45		○ ENDF/B-II入手 ○ 評価作業開始(²³⁸ U(n,n'), Cr, Fe, Niの捕獲断面積)		3 原研JRR-1解体(31日) 6 2 nd IAEA Conf. Nuclear Data for Reactors(15~19日、Helsinki) 7 4センター組織によるデータの交換開始 8 米国、ENDF/B-II公開(53核種) ○ 西独、KEDAK-2公開(20核種)
1971 昭46		3 熱中性子炉用FP炉定数完成 4 「核データ情報・評価専門部会」は「核データ専門部会」となる 5 「JAERI Fast Setの作成」学会特賞受賞(27日) 12 JENDL 0次版の案検討 ○ 重核、構造材核種の核データ評価開始 ○ FP核種の核データ評価開始 ○ 評価済核データの処理コード、実験デー		3 3 rd Conf. Neutron Cross Sections and Technology(15~17日、Knoxville) 4 東大「弥生」臨界(10日) 7 動燃、英AEAとMORZART計画調印(8日) ○ 原研FACOM 230-60増力(主記憶256kW×2) ○ RENDAがIAEAに移り、WRENDAとなる

年	月	シグマ委員会関係	月	関連事項
		タ格納検索システム作成開始		
1972 昭 47	3 11	JENDL-0 次版案確定、JENDL-0 WG 発足 (17 日) JAERI Fast Set の基礎データの格納開始 「第 3 回中性子断面積研究会」(9~11 日、原研) ○ Safeguard 核データリクエストの作業を検討 ○ 28 FP 核種のデータ評価終了 (中性子エネルギー 100 eV~15 MeV)	4 5 8 12	ENEA が NEA と改名 (20 日) 日本が NEA への正式加盟決定 (9 日) 原研増力リアック完成 (8 日) ソ連の高速増殖炉 BN350 臨界 (25 日) ○ 京大炉リアック増力 ○ 米国、ENDF/B-III 公開 (120 核種)
1973 昭 48	4	「燃料計量核データ専門部会」発足 ○ 捕獲断面積計算コード CASTHY を作成 ○ 核データ作図用コード SPLINT を作成 ○ JENDL-1 作成方針についての議論を重ねた	8	フランスの高速増殖炉 PHENIX 臨界 (31 日) ○ 英国、UKNDL-73 公開
1974 昭 49	3 3 4 6	第 17 回 EANDC 会合 (25~29 日、東京) 「熱中性子炉用核分裂生成物炉定数の作成」学会技術賞受賞 (31 日) 崩壊熱核データ WG 発足、FP 崩壊熱の評価開始 JENDL-1 編集グループ発足 (14 日) ○ JENDL-0 完成	2 3 8 9 11	米国高温ガス炉フォートセントプレイン炉臨界 放医研医療用サイクロトロン完成 (31 日) 原子力船「むつ」原子炉臨界 (28 日) 原子力船「むつ」放射線もれ (1 日) 国際エネルギー機関 (IAE) 発足 (18 日) ○ ENDF/B-IV 完成 ○ 北大で、荷電粒子核反応データベースの開発が始まる
1975 昭 50	3 9 12	27 FP 核種データ再評価終了 (10^{-5} eV~20 MeV) 学会会長より原子力委員長宛に「核データ整備の専門機関設置に関する要望書」出る (12 日) INDC 議長より原子力委員長宛に手紙「Japanese Nuclear Data Center」(17 日) ○ ^{241}Am の核データ評価 (TRU 核種の評価の開始) ○ JENDL-1 の編集作業 ○ 炉定数作成コード PROF GROUCH G-2 開発	1 2 6	米国、AEC 廃止、エネルギー研究開発局 (ERDA) と原子力規制委員会 (NRC) が発足 (19 日) 米国、ENDF/B-IV 公開 (271 核種) 原研 NSRR 臨界 (30 日) ○ EANDC, EACRP が NEANDC, NEACRP となる ○ 原研 FACOM 230-75 導入 (主記憶 1024 kW × 2) ○ 西独、KEDAK-3 の一部公開 ○ IAEA/NDS、荷電粒子とガンマ線核データのネットワークを作る
1976 昭 51	4 4 8 10	「核データ研究室」が「原子核データ室」として認可組織となる 「核分裂生成物の核データライブラリーの作成と評価」学会技術賞を受賞 (2 日) 「JNDC ニュース」を 37 号より「核データニュース」と改題 学会で informal meeting 開催 (4 日、原研東海) 以後、(核データ・炉物理) 合同特別会合として継続している ○ JENDL-1 編集終了 ○ JENDL-1 のベンチマークテストを行う ○ JNDC FP Fast Reactor Constant System 完成 ○ 「核図表」第 1 版作成 (1977 年 2 月発行)	○	核構造データの評価 (mass-chain 評価) が国際協力による評価体制で行われるようになる ○ 米国、NNCSC が国立核データセンター (NNDC) になる

年	月	シグマ委員会関係	月	関連事項
1977 昭 52	3 5 7 7 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	JENDL-1 完成 (72 核種の核データを収録) (31 日) 「核データニュース誌」に定期刊行物としての番号 (ISSN) が付く (通巻 39 号より) 「原子核データ室」が「核データセンター」と改名された (1 日) 専門部会組織再編。「核構造・崩壊データ専門部会」発足 (15 日) Mass chain 評価に参加 (A=118~129) シグマ研究委員会規約改定 JENDL-1 公開 (秋) 34 FP 核種のデータ評価終了 (JENDL には未格納) JENDL-2 計画作成、評価作業開始 遮蔽炉定数作成コードシステム RADHEAT-V3 完成、遮蔽用炉定数 JSD100 を作成	4 4 9 10 12 ○	カーター大統領、新原子力政策に関する声明 (7 日) 高速増殖炉「常陽」臨界 (24 日) 原研「原子分子データ研究委員会」発足 (1 日) 米国エネルギー省 (DOE) 発足 (1 日) NPT 保障措置協定発行 西独、KEDAK-3 の一部公開 (46 核種となる)
1978 昭 53	12 ○	「1978 年核データ研究会」(20, 21 日、原研東海) 以降毎年開催 ○ 会話型核データ評価システム NDES を作成	1 3 4 9 11 ○ ○ ○	OECD/NEA Data Bank 発足 新型転換炉「ふげん」臨界 (20 日) 動燃と米国 DOE による日米共同大型高速炉臨界実験 (JUPITER Phase I) 実験開始 (~1979 年 9 月まで) Int. Conf. Neutron Physics and Nuclear Data for Reactors and Other Applied Purposes (25~29 日、Harwell) 「第 21 回 NEACRP 会合」(6~10 日、東海) BNL NNCSC が NNDC と改名 「Table of Isotopes, 第 7 版」発行 米国 ENDF/B-V 完成。一部のデータ (256 核種) を除いて非公開となる
1979 昭 54	3 11 11 12 ○	日本の Mass chain 評価結果 (A=121) が「Nuclear Data Sheets 誌」に載る JENDL-2B 完成。JUPITER 実験の解析に供する 「JENDL-3 検討小委員会」発足 (16 日) 「1979 年核データ研究会」(10, 11 日、東海) ○ JENDL-3 計画の検討開始	3 10 ○	米国、TMI 原発で事故 (28 日) Int. Conf. Neutron Cross Sections for Technology (22~26 日、Knoxville) ○ Nuclear Reaction Data Center Network (NRDC) ができる
1980 昭 55	12 ○ ○	「1980 年核データ討論会」(10, 11 日、東海) ○ 「核図表 1980 年版」作成 (1981 年 2 月発行) ○ Fe 体系の 14 MeV 中性子漏洩スペクトルに対する JENDL-2 のテスト結果から、二重微分断面積の重要性が指摘される	○	原研 FACOM M-200 導入
1981 昭 56	1 11	「JENDL-3 検討小委員会」の答申が出る (16 日) 「1981 年核データ研究会」(26, 27 日、東	3 7	原研 FNS 完成 (30 日) 米国レーガン大統領、核不拡散と平和利用協力に関し声明発表 (16 日)

年	月	シグマ委員会関係	月	関連事項
		海) ○ JNDC FP 崩壊データファイル第 1 版完成 (1172 核種の崩壊データを格納)	8	(財) 原子力データセンター発足 (1 日) ○ NEA Data Bank、JEF-1 の編集開始 ○ 英国、UKNDL-81 公開 (UKNDL の最終版、82 核種+197 FP 核種) ○ ENSDF の管理が ORNL から BNL/NNDC に移る ○ 阪大の強力 14 MeV 中性子工学実験装置「オクタビアン」による二重微分断面積の測定開始
1982 昭 57	5 6 11 12	シグマ特別専門委員会内規改訂 (7 日) 医学用原子分子・原子核データ WG 設置、医学用データの検討を開始 (4 日) 「1982 年核データ研究会」(24、25 日、東海) JENDL-2 公開 (89 核種のデータを収録) ○ JENDL-3 の評価作業開始	8 8 9	原研タンDEM加速器完成 JUPITER Phase II 実験開始 (~1983 年 5 月まで) Int. Conf. Nuclear Data for Science and Technology (6~10 日、Antwerp)
1983 昭 58	3 11	「核分裂生成物崩壊熱の実験的および理論的研究」学会論文賞受賞 「1983 年核データ研究会」(30 日~12 月 1 日、東海) ○ JENDL-2 の改訂、ファイルの完全化作業 ○ JENDL-3 のための評価作業 ○ JENDL-3PR1 作成 (主要 8 核種のデータ収録) ○ JNDC FP 崩壊データファイル第 1.5 版完成	2 5 6 10	原研 JT-60 本体組立開始 (22 日) 高速炉「もんじゅ」設置許可 (27 日) EC の核融合実験装置 JET 運転開始 (25 日) 米上院、クリンチリバー増殖炉予算を否決、建設計画中止 (16 日) ○ 西独、KEDAK-4 公開
1984 昭 59	3 3 10 11	第 24 回 NEANDC 会合 (12~16 日、原研東海)、NEANDC Topical Conf. (14 日) JENDL-2 改訂版完成 JENDL-2 のための FP 100 核種の評価終了 「1984 年核データ研究会」(13~15 日、東海) ○ 「核図表 1984 年版」作成 (1985 年 3 月発行) ○ Mass chain 評価、A=118~129 の評価を終了し第 2 回評価作業に入る ○ 核種生成量評価コードシステム COMRAD と関連データライブラリー完成	10 12	西独、KEDAK-4 の修正版公開 (KEDAK の最終版、57 核種) 原研 JT-60 通電試験開始 (10 日) ○ NEA Data Bank、JEF-1 完成、JEF-2 の作成開始 ○ 原研 FACOM VP-100 導入 ○ 原研 FNS を用いた日米核融合協力研究開始
1985 昭 60	3 3 7 11 12	JENDL-3PR2 作成 「評価済核データライブラリー JENDL-2 の完成」学会特賞受賞 (28 日) 「核融合ニュートロニクスにおける核データ検討会」(23~25 日、原研東海) 「1985 年核データ研究会」(12~14 日、東海) 中国とインドネシアからの参加あり JENDL-2 のための 100 FP 核種データの最終編集終了。JENDL-2 は格納核種 181 となる	3 4 4 5 9	つくば科学万博開幕 (17 日~9 月 16 日まで) 原研那珂研設置 原研 JT-60 ファーストプラズマ達成 (8 日) Int. Conf. Nuclear Data for Basic and Applied Science (13~17 日、Santa Fe) フランス高速増殖炉 super PHENIX 臨界 (7 日) ○ NEA Data Bank、JEF-1 を加盟国に公開 ○ 中国、CENDL-1 完成 (37 核種) ○ 科技庁、近隣諸国との原子力研究交流制度開始

年	月	シグマ委員会関係	月	関連事項
1986 昭 61	3 11 11	JENDL 特殊目的ファイルの答申が出る (14 日) JENDL-3 以降の計画検討委員会の答申出る (7 日) 「1986 年核データ研究会」(26, 27 日、原研東海)	3 4	動燃、日米大型炉遮蔽ベンチマーク実験 (JASPER) 開始 (1992 年 9 月まで) ソ連、チェルノブイリ事故発生 (26 日)
1987 昭 62	11 ○ ○ ○	「1987 年核データ研究会」(12, 13 日、原研東海) JENDL-3T の編集・積分テスト 標準炉定数 (JSSTD) の作成開始 (α, n) 反応データファイルの作成開始	1 4 9 11 ○ ○	JUPITER Phase III 実験開始 (~1987 年 12 月まで) 学会「原子炉崩壊熱基準」研究専門委員会発足 原研 JT-60 臨界プラズマ条件の目標領域に達成 (17 日) IAEA/NDS が FENDL の作成を決める ソ連、BROND-1 を公開開始 「群分離・消滅処理技術研究開発長期計画 (通称オメガ計画)」策定
1988 昭 63	5 9 12 ○ ○ ○	「Int. Conf. on Nuclear Data for Science and Technology」(30 日~6 月 3 日、水戸) JNDC FP 崩壊データファイル第 2 版完成 (1227 核種の崩壊データ格納) 「1988 年核データ研究会」(8, 9 日、原研東海) シグマ委員会 25 周年がトピックスとなる 「核図表 1988 年版」作成 (1989 年 6 月発行) JENDL 放射化断面積ファイルのための本格的評価作業開始 簡易入力核反応断面積計算システム SINCROS-I ができる	1 2 3 9	JUPITER IO 実験 (~1988 年 2 月まで)。この実験で動燃と米国 DOE との日米大型高速炉臨界実験終了 日本、国際熱核融合実験炉 (ITER) 計画参加決定 (5 日) 原研 BITNET に加入 Int. Reactor Physics Conf. (18~22 日、Jackson Hole)
1989 平元	4 10 11 12	核データ専門部会改組、光核反応データ、荷電粒子核データ、PKA スペクトルの評価を開始 JENDL-3 完成 (171 核種のデータを収録) 「1989 年核データ研究会」(16, 17 日、原研東海) JENDL-3 公開 (12 日)	3 4 8 10 ○	低温核融合の論文発表 動燃と原電「大型高速炉用修正炉定数の研究」開始 (~1992 年 3 月まで) 学会「原子炉崩壊熱基準」研究専門委員会、「原子炉崩壊熱とその基準」発表 OECD/NEA 核データ評価国際協力ワーキングパーティ (WPEC) 発足 核分裂発見 50 周年
1990 平 2	11 12 12 ○ ○	「1990 年核データ研究会」(29, 30 日、原研東海) アジア地域シンポジウムと位置づけ、中国の研究者を招待 JENDL-3.1 完成 (172 FP 核種のデータを追加し、全格納核種は 324 となる) 「核融合炉用核データ専門家会議」(20, 21 日、原研東海) JENDL-3 の核融合炉への適用性検討 ESNIT 計画のため、50 MeV までの核データ評価を開始 SINCROS-II ができる	1 3 4 6 9 ○ ○	米国、ENDF/B-VI 公開開始 (26 日) 原研新 JRR-3 臨界 (22 日) Int. Conf. Physics of Reactors (23~27 日、Marseille) NEA Data Bank、JEF-2 完成 (309 核種) 原研 JPDR 原子炉圧力容器解体撤去完了 (28 日) 原研 JT-60U 運転開始 IAEA/NDS、IRDF-90 を編集

年	月	シグマ委員会関係	月	関連事項
1991 平 3	3 7 7 10 10 11	「原子炉崩壊熱基準の作成」学会技術賞受賞 JENDL Dosimetry File 91 完成 JENDL Gas Production Cross Section File 完成 「第 1 回高エネルギー核データ専門家会議」(3, 4 日、原研東海) JENDL-3 第 2 改訂版 (JENDL-3. 2) 作業開始 「1991 年核データ研究会」(28, 29 日、原研東海)	3 5 12 ○ ○ ○	原研、評価済原子分子データライブラリー JEAMDL-3 完成 Int. Conf. Nuclear Data for Science and Technology (13~17 日、Juelich) NEA の改組、第 1 回 NEANSC 会合 (18, 19 日、Paris) 中国、CENDL-2 を公開 (49 核種) 米国、ENDF/B-VI 完成 (320 核種) 京大炉に鉛スペクトロメータ (KULS) を設置
1992 平 4	5 11 ○ ○	NEANSC「FP 核データ専門家会議」(25~27 日、原研東海) 「1992 年核データ研究会」(26, 27 日、原研東海) ○ JENDL-3. 2 のための作業 ○ 「核図表 1992 年版」作成 (1993 年 2 月発行)	2 7 9 ○ ○	NEA Data Bank、JEF-2. 2 公開 (314 核種) ITER 工学設計活動開始 JASPER 終了 ロシア、BROND-2 公開 (121 核種) 核分裂炉 50 周年
1993 平 5	2 4 4 7 11	「シグマ委員会創立 30 周年講演会」(12 日、富国生命ビル) 原研の組織改正で、核データセンターが、原子炉工学部に入る 高エネルギー評価 WG を設置し、高エネルギー評価を開始 「共分散専門家会議」(15, 16 日、原研東海) 「1993 年核データ研究会」(18, 19 日、原研東海)	1 1 5 9 9 10 ○ ○	NEA Data Bank、JEF を完全公開にする 「あかつき丸」東海港入港 (5 日) NEA Think Tank 会合 (27 日、Paris) 原研リニアック運転終了、年末に閉鎖、翌 3 月解体撤去完了 GLOBAL'93 開催 (12~16 日、Seattle、このシリーズの一回目) FNS を用いた日米核融合協力研究終了 ロシア、BROND-2. 2 完成 (121 核種) 中国、CENDL-2 改訂 (54 核種)
1994 平 6	4 6 11	「核構造・崩壊データ専門部会」が「核燃料サイクル専門部会」と改称 JENDL-3. 2 公開 (340 核種) 「1994 年核データ研究会」(17, 18 日、原研東海)	3 4 4 5 6 12 ○ ○ ○ ○	International Science and Technology Center (ISTC) 発足 (Moscow) 高速炉原型炉「もんじゅ」初臨界 (5 日) 核反応データセンター協力調整に関する助言者会議 (25~27 日、Paris) Int. Conf. on Nuclear Data for Science and Technology (9~13 日、Gatlinburg) 原子力委員会、原子力長期計画を発表 NEA Data Bank のホームページ開設 米国、NNDC ホームページ開設 米国、ENDF/B-V を完全公開 EC、EFF-2. 4 を公開 「医学物理データブック」が発行される
1995 平 7	1 2 2 3	「第 2 回高エネルギー核データ専門家会議」(26, 27 日、原研東海) メーリングリスト JNDCmail の試験運用開始 (1 日) 核データセンターのホームページ開発開始 (6 日) 核データセンターのホームページを限定公開 (1 日)	2 5 6 10 12 ○	原研、STACY 初臨界 NEANSC 国際核データ実験活動ワーキングパーティ (WPINDMA) 第 1 回会合 (16~17 日、Paris) 原研 JPDR 解体 原研関西研設置 原研 TRACY 初臨界 (20 日) 原子力船「むつ」廃止

年	月	シグマ委員会関係	月	関連事項
	4	核データセンターのホームページを公開 (3日)	○	米国、ENDF/B-VI.3を公開
	8	WWW版核図表を作成・公開(以後毎年更新)	○	中国、CENDL-2.1を公開(67核種)
	11	「1995年核データ研究会」(16,17日、原研東海)		
	11	「日露光核反応データ評価ワークショップ」(14,15日、原研東海)		
	11	「第3回核融合炉核データ専門家会議」(29,30日、原研東海)		
1996 平8	3	JENDL Activation Cross Section File 96を公開(11日、233核種、1246反応)	○	Table of Isotopes 8-th edition
	4	「第1回核データインターネットシンポジウム」(8日～6月15日)	○	米国、ENDF/B-VI.4を公開
	5	マイナーアクチニド核データに関する日露ワークショップ(27～31日、原研東海)		
	11	「1996年核データ研究会」(21,22日、原研東海)		
	○	「核図表1996年版」作成(1997年5月発行)		
	○	JENDL-3.2の問題点を調査(JENDL-3.2問題点検討小委員会)		
1997 平9	4	JENDL-3.3開発開始	2	IAEA/NDS、FENDL-2.0完成
	9	「JENDL-3.2 PLOTS and DATA」CD-ROMを発行	5	Int. Conf. on Nuclear Data for Science and Technology(19～24日、Trieste)
	11	「1997年核データ研究会」(27,28日、原研東海)	○	IAEA、FENDL-2.0を公開
	○	JENDL-3.2重核の遅発中性子データを修正し、update fileを公開		
1998 平10	3	「第3回高エネルギー核データ専門家会議」(30,31日、原研東海)	10	米国、ENDF/B-VI.5公開
	4	原研の組織改正で、核データセンターが、エネルギーシステム研究部に入る	11	原研HTTR初臨界(10日)
	11	「1998年核データ研究会」(19,20日、原研東海)	○	IAEA、核データモデル計算のための標準入力パラメータライブラリーRIPL-1完成
	○	原研、シグマ研究委員会見直し		
1999 平11	1	「遅発中性子核データ専門家会議」(28,29日、原研東海)	6	米国、ENDF/B-VI.6を公開
	4	新たなシグマ研究委員会規程が施行される(1日)	9	「第10回原子炉ドシメトリ国際シンポジウム」(12～17日、大阪)
	4	JENDL Fusion File 99を公開	9	学会に標準委員会設立(22日)
	6	「核データニュース」通巻100号発刊	9	JCO臨界事故発生(30日)
	7	「JENDL Dosimetry File 99」完成	10	「第9回放射線遮蔽国際会議(ICRS-9)」(17～22日、つくば)
	10	「光核反応ワークショップ」(25～26日、原研東海)		
	11	「1999年核データ研究会」(18,19日、原研東海)		
	○	シグマ検討小委員会を編成し、核データ部会設立について検討(10～12月)		

年	月	シグマ委員会関係	月	関連事項
2000 平 12	11	「2000年核データ研究会」(16, 17日、原研東海) ○ JENDL FP Decay Data File 2000 完成(1229核種) ○ 「核図表 2000年版」作成(2001年6月発行)	3	「日本原子力学会核データ部会」発足(30日)
			4	理研、核データの国際協力から撤退
			4	米国、ENDF/B-VI.7を公開
			6	NEA 核データ評価国際協力ワーキングパーティ(WPEC)会合(20~21日、原研東海)
			11	CERNのn_TOF運転開始
			○	理研、新潟大、東北大グループ、魔法数16を発見
			○	サイクル機構、高速炉用統合炉定数ADJ2000を開発
2001 平 13	2	「炉定数整備専門家会議」(22, 23日、原研東海)	10	米国、ENDF/B-VI.8を公開
	10	「ND2001, Int. Conf. on Nuclear Data for Science and Technology」(7~12日、つくば)	10	中国、CENDL-3のFP核種(101核種)のデータを公開
			12	特殊法人等整理合理化計画が閣議決定(19日)
			○	原研・KEK、大強度陽子加速器の施設建設開始
2002 平 14	5	JENDL-3.3公開(10日、337核種)	4	NEA Data Bank、JEFF-3.0を公開(340核種+5熱中性子散乱則データ)
	9	「JENDL-3.3 PLOTS and FIGUER」CD-ROMを発行		
	11	「2002年核データ研究会」(21, 22日、原研東海)		
	○	核データニュースのpdf化		
	○	次期 JENDL について検討(次期 JENDL 検討小委員会)		
2003 平 15	2	核データニュース、シグマ委員会40周年記念号		

シグマ特別専門委員会歴代主査

百田 光雄	1963年4月～
塚田 甲子男	1974年6月～
原田 吉之助	1980年7月～
鹿園 直基	1985年6月～
石井 三彦	1990年7月～
中嶋 龍三	1992年7月～
吉田 正	1998年7月～
井頭 政之	2002年7月～

シグマ研究委員会歴代委員長

百田 光雄	1963年2月～
塚田 甲子男	1974年4月～
原田 吉之助	1980年4月～
鹿園 直基	1985年4月～
石井 三彦	1989年11月～
平岡 徹	1993年4月～
吉田 弘幸	1994年4月～
村尾 良夫	1995年4月～
中川 正幸	1997年4月～
落合 政昭	2000年10月～
岩村 公道	2002年10月～

シグマ委員会 2 年報

1963 年～1964 年	原子力誌, Vol.7, (No.5),	pp.248～252 (1965)
1965 年～1966 年	原子力誌, Vol.9, (No.10),	pp.604～610 (1967)
1967 年～1970 年	原子力誌, Vol.14, (No.2),	pp.70～78 (1972)
1971 年～1972 年	原子力誌, Vol.15, (No.12),	pp.832～842 (1973)
1973 年 4 月～1975 年 3 月	原子力誌, Vol.17, (No.12),	pp.645～652 (1975)
1975 年 4 月～1977 年 3 月	原子力誌, Vol.19, (No.12),	pp.814～821 (1977)
1977 年 4 月～1979 年 3 月	原子力誌, Vol.21, (No.11),	pp.840～847 (1979)
1979 年 4 月～1981 年 3 月	原子力誌, Vol.24, (No.2),	pp.122～130 (1982)
1981 年 4 月～1983 年 3 月	原子力誌, Vol.25, (No.12),	pp.993～1003 (1983)
1983 年 4 月～1985 年 3 月	原子力誌, Vol.27, (No.12),	pp.1114～1123 (1985)
1985 年 4 月～1987 年 3 月	原子力誌, Vol.29, (No.11),	pp.982～991 (1987)
1987 年 4 月～1989 年 3 月	原子力誌, Vol.32, (No.1),	pp.56～64 (1990)
1989 年 4 月～1991 年 3 月	原子力誌, Vol.33, (No.12),	pp.1142～1150 (1991)
1991 年 4 月～1993 年 3 月	原子力誌, Vol.36, (No.1),	pp.60～67 (1994)
1993 年 4 月～1995 年 3 月	原子力誌, Vol.37, (No.12),	pp.1095～1103 (1995)
1995 年 4 月～1997 年 3 月	原子力誌, Vol.39, (No.12),	pp.1019～1027 (1997)
1997 年 4 月～1999 年 3 月	原子力誌, Vol.41, (No.12),	pp.1213～1221 (1999)
1999 年 4 月～2001 年 3 月	原子力誌, Vol.44, (No.1),	pp.106～114 (2002)